特集

# 家庭で行う防災・減災

▶台風10号に伴う大雨後の栗原地区の様子

私たちの生活に大きな被害や影響をもたらす自然災害は、日時を選ばず発生します。

昨年は、元日に北陸地方で甚大な被害をもたらした能登半島地震が発生し、8月には、宮崎県沖の日向灘でマグニチュード7.1の地震が発生。南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が初めて発表されました。さらに、台風10号に伴う大雨により、町内各地で避難情報が発令されるなど、決して他人事ではありません。

現在の科学技術では、大雨の雨量や被害想定、地震の発生時期などを予測することは困難です。日ごろから食料品や生活用品を備蓄しておくとともに、避難経路や家族との集合場所を確認するなど、いざという時に行動できるように準備しておくことが重要です。

今回は、自然災害に対して、私たちが行うことができる防災・減災について紹介します。

▲能登半島地震により被害を受けた町並（石川県ホームページより）

## 家具の固定、配置の確認

警察庁の発表によると、能登半島地震で警察が取り扱った228人の死者のうち、約4割が家屋の倒壊や家具の転倒・落下による「圧死」で亡くなったことが分かりました。固定されていない家具は大きな揺れが発生した際、わずかな時間で倒れてきます。被害を防ぐには、金具によるネジ止めや突っ張り棒による家具の固定、寝る場所や避難の妨げになり得る場所に倒れてくる危険のある家具を置かないなどが有効です。今一度家具の固定状況や配置などを確認し、家の中の危険箇所を減らしましょう。

## ハザードマップの確認

地域ごとに土砂災害、洪水、地震のハザードマップを作成しています。ハザードマップで自宅の位置を確認し、自宅が危険な位置にあるか、自宅から避難する場合はどこが危険かを確認しましょう。また、ハザードマップには、避難所の位置が掲載されていますので、避難所までの経路を家族で確認しましょう。

避難情報の発令を受けて速やかに避難所へ行くことだけが避難ではありません。避難所へ行くことがかえって危険な場合は、垂直避難や親戚や友人宅など、避難所以外の安全な場所へ向かいましょう。避難所や危険箇所の確認だけではなく、安全を確保できる場所がどこにあるかという点にも着目してみましょう。

### 避難所以外への避難の例

**水平避難・立ち退き避難**

避難までに十分な時間と余裕がある場合は、近隣の避難先ではなく、川や山から離れ、より安全な場所へ避難しましょう。

**垂直避難・屋内安全確保**

急激な降雨や浸水により屋外での避難行動が困難な場合は、浸水による倒壊の危険がないことを確認し、自宅や隣接建物の2階以上など、より高い場所に避難しましょう。

**※悪天候の時に川や山の様子を見に行くことは非常に危険です。絶対にやめましょう。**



## 防災行政無線などの情報を取得

防災行政無線で放送した内容を次の方法で確認をすることができます。アプリなどを登録し、町からの緊急情報を取得しましょう。

**町公式LINE**

アプリ内で「垂井町」を友達検索するか、二次元コードを読み取って友達追加してください。

**防災アプリ**

二次元コードを読み取り、インストールしてください。

▲iPhone　▲Android

**メール「たるいボイス」**

「t-tarui@sg-p.jp」または二次元コードから空メールを送信してください。

▲PC・スマホ　▲フィーチャーフォン

**テレホンサービス**

防災行政無線での発信情報を電話で聴くことができます。
☎0800-200-1387

## 備蓄品の用意

災害が発生すると、物流が停止し、食料品などを手に入れることが困難になる可能性があります。そのため、家族全員分の食料品や水などを最低3日分、できれば1週間分を備蓄しましょう。また、乳幼児がいる家庭であれば粉ミルクや紙おむつ、高齢者がいる家庭であれば携帯用の杖や老眼鏡など、家族構成によって必要となるものをあらかじめ用意しておきましょう。

### 備蓄品リスト例

**食料**

・非常食
・飲料水
（目安は1人1日3L）

**情報収集用品**

・携帯電話
・ラジオ

**その他**

・貴重品
・衣類
・常備薬、持病薬

**衛生用品**

・簡易トイレ（目安は1人1日5回）
・ティッシュ
・ウェットタオル
・救急用品

**便利品**

・革手袋
・懐中電灯
・ヘルメット

### 備蓄は「ローリングストック」がおすすめ

食料品や日用品の備蓄は、普段から利用しているものを少し多めに購入し、賞味期限の古いものなどから消費。後日使った分だけ購入することで常に一定の量を家庭内で備蓄する「ローリングストック」という方法があります。普段から食べ慣れた物などを備蓄することで、非常時でも日常生活に近い生活を送ることができます。ローリングストックを活用しながら、非常時に備えた備蓄品の準備を進めましょう。

企画調整課　生活安全係　宮﨑　諒

今回の特集では、私たちが普段の生活の中で行うことができる防災対策について紹介しました。災害時だけではなく、平時から「自らの命は自ら守る」という意識を持ち、命を守るための準備を行う「自助」に取り組むことが大切です。私たちが災害の発生を防ぐことはできませんが、災害に対する事前の対策を行い、被害を軽減することは可能です。家庭で防災・減災に取り組むことは、災害時の被害を小さくするためには非常に重要です。できることから1つずつ行うことが自らの命を守る第一歩となります。

問 企画調整課　生活安全係　☎22-1152